

地域農園活用プロジェクト 成果報告書

1 学校名

呉港高等学校

2 教育活動

区分 ⑦ 地域におけるにぎわいの創出

テーマ 地元農園の整備と特産みかんの収穫・販売による地域貢献

3 連携した市町

呉市（下蒲刈町）

4 連携した企業、団体等

河原農園

5 参加した生徒

本校、地域振興同好会の部員中心

6 活動内容

（1）活動の背景と目的

下蒲刈町の農園は、高齢化や担い手不足により管理が難しくなりつつある状況であった。放置された農地は景観の悪化だけでなく、竹林被害や雑草繁茂による周辺環境への影響も懸念されている。本校では、地域資源を活用した教育活動として、農園整備や果樹栽培、収穫、商品開発を通して地域貢献を図るとともに、生徒の主体性や協働性を育成することを目的として本事業を実施した。

また、本活動では、農業体験を通して「地域で働くこと」や「地域資源を活用すること」の価値を理解し、将来の進路選択や地域社会への関心を高めることも重要な狙いとしている。生徒が実際に地域住民と関わりながら活動を進めることで、コミュニケーション能力や課題発見力の育成にもつながる取組として実施したい。

（2）農園整備活動

活動開始当初は、雑草が繁茂し農作業が困難な状態であったため、生徒が中心となり草刈りや除草作業を継続的に実施した。また、除草シートの設置、肥料散布、苗木の植え付け、土壌管理などを行い、農地環境の改善を図った。

農園整備では、安全な作業を行うために、道具の正しい使用方法や作業手順について事前に学習し、作業計画を立ててから取り組んだ。特に夏季の作業では熱中症対策として休憩時

間や水分補給を徹底し、農作業の厳しさと安全管理の重要性についても学ぶ機会となった。これらの作業を通して、生徒は農地を維持するためには日常的な管理が重要であることを学んだ。また、継続的な管理が収穫量や品質に大きく影響することを理解し、計画的に作業を行う姿勢が育まれた。



(写真：農園整備の様子)

(3) 果樹栽培及び収穫

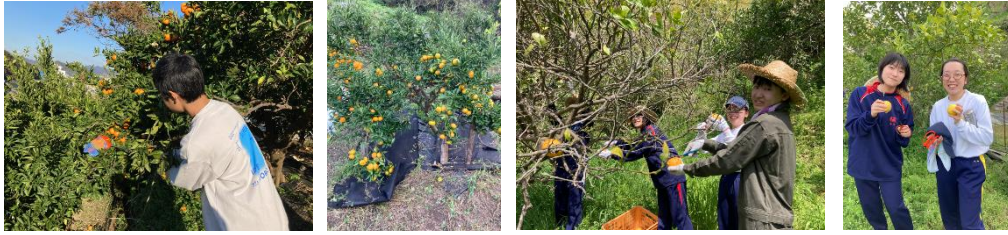
本年度は、みかん、レモン、梅、甘夏、無花果、ブラッドオレンジ、はるか等の栽培管理を行った。みかんは表年で豊作が期待されたが、夏季の高温と少雨の影響により果実は全体的に小ぶりとなった。しかし最終的には1,000個以上を収穫することができ、自然環境が農作物に与える影響を実体験として学ぶ機会となった。また、生徒は天候条件に応じた栽培管理の重要性を理解し、自然と向き合う農業の難しさを実感した。

レモンは成木4本から1,000個以上を収穫した。また昨年度植栽した苗木2本にも結実が確認され、継続した管理による成果を確認することができた。一方、今年度植栽した苗木10本は猛暑の影響により枯死する結果となった。この経験から、生徒は植栽時期や環境条件の重要性について学び、今後の栽培計画を見直す必要性を考える機会となった。

無花果は本年度新たに5本植栽し、初年度ながら約50個を収穫した。果実は糖度が高く品質も良好であり、生徒からも高い評価を得た。今後の栽培拡大が期待される作物として位置付けている。

甘夏については順調に生育しており、翌春の収穫を予定している。また、ブラッドオレンジ及び地元特産のはるかの苗木も順調に成長しており、将来的な収穫量の増加が見込まれる。

これらの栽培活動を通して、生徒は果樹ごとに管理方法が異なることを理解し、観察力や継続的な記録の重要性を学ぶことができた。



(写真：みかん収穫の様子)



(写真：レモン収穫の様子)

(写真：無花果の収穫)

(4) 商品開発の取組

収穫物の活用として、レモンのドライフルーツの試作を実施した。加工工程として洗浄、スライス、乾燥作業を行い商品化を検討したが、甘味不足やレモン果皮の苦味が課題となり商品化には至らなかった。しかし、試作過程において加工条件の違いによる味や食感の変化を比較検討するなど、生徒が主体的に改善策を考える活動となった。

また、文化祭では商品開発の一環としてレモンラーメンを企画・販売した。試作を重ねた結果、レモンの風味と相性の良いコンソメ系スープを採用し、地域農産物を活用した新たな商品として提供した。販売活動では来場者からの感想を収集し、味や見た目、価格設定などについて意見を分析することで、商品開発の実践的な学習につながった。

これらの活動を通して、生徒は農産物の生産から加工、販売までの流れを総合的に学ぶことができ、地域資源の付加価値を高める視点を養うことができた。



(写真：ドライフルーツ試作)



(写真：文化祭レモンラーメン販売の様子)

(5) 広報及び地域への発信

文化祭において活動成果をポスター展示し、生徒が来場者に対して活動内容や成果を説明する機会を設けた。発表準備では、活動の目的や成果を整理し、分かりやすく伝える方法について話し合いながら資料を作成した。地域農業の現状や本校の取組を発信する機会となり、多くの来場者の関心を得ることができた。



(写真：ポスター展示の様子)

7 活動の効果

- ① 生徒が農園整備や栽培活動に主体的に取り組むことで、地域農業の現状や課題への理解を深めることができた。
- ② 気候条件による作物生育への影響を体験的に学び、課題解決に向けて考える力を育成することができた。
- ③ 地元河原農園との交流を通じて世代間交流が促進され、地域との連携強化につながった。地域の方々から直接指導を受けることで、実践的な知識や技能を習得することができた。
- ④ 文化祭での発信活動を通じて、地域特産品の魅力を広く周知することができた。
- ⑤ 継続的な農園活動を通じて、生徒に責任感や協働する姿勢が生まれ、学校外での社会的役割を意識するきっかけとなった。

8 今後の展望

来年度以降は無花果の植栽拡大を検討するとともに、みかん、レモン、梅等の剪定及び施肥管理を行い、収穫量と品質の向上を目指す。また、気候変動の影響を踏まえ、栽培環境に適した管理方法について研究を進めていく。さらに、果実の糖度や風味を高め、よりおいしく品質の高い農産物を生産するため、施肥方法や水管理、日照条件、剪定方法などについて比較・検証を行い、生育状況を記録しながら最適な栽培方法を模索していく。

さらに、冬季期間を活用し、次年度の栽培準備や農園整備を進めるとともに、生徒が主体的に活動計画を立案できる体制づくりを進めていく。